

千葉発地域創生 愛媛県今治市の事例に学ぶ

敬愛大学学長

三 幣 利 夫

はじめに

皆さま、こんにちは。シンポジウムの開始前、大学とこの研究所についてお話をさせていただきます。

敬愛大学が稲毛に創立され、今年でちょうど50年目に入り、大きな節目を迎えようとしております。50年前の昭和41年に、この稲毛に大学を創設いたしました。高度成長期の後半で、団塊の世代が大学に入学する、そのような時期でした。日本も本当に元気のある時代で、若い方がたくさんおられた、そういう時代でした。

それから50年が経過、ご承知のとおり少子化がどんどん進み、千葉県もその中にあります。他方、50年前に比べますと、大学への進学率が50%超と高くなり、学生数の減り方はそれほどではないのですが、この少子化が、大学にもさまざまな分野に影響を与えることになっております。

そういった現状にもかかわらず、大学の数はかつてに比べると増えています。そして千葉県の高校生は、東京に近いということもあり、やはり東京に向かう傾向にあります。都心のほうに新しい大学や高層の校舎ができる、そこで益々多くの学生が東京に向かう、そういう流れがあり、千葉県にある大学としまして、これからの時代、どのようにその存在を示すべきか、と考えてまいりました。

基本は学生の教育、人材の育成にあります。同時に千葉県千葉市にある、この地を大事にした存在であり、この地域で必要とされる、そのような役割を果たす大学であるべきで、地域と連携しながら、また地域に貢献できる、そういう大学づくりを目指していきたいと考えております。

千葉県の場合、千葉市から東京方面は比較的人口も多く、若い学生も、高校生もたくさんいます。他方で千葉市から東側、南側はとにかく高校生が減ってきており、これからも減り続けます。これは県にとってよいことではありませんし、大学にとっても同様です。この状況を少しでも変えられるよう、大学としてさまざまな役割を、できることを、県と連携しながら果たしていきたいと考えております。

本学の場合、総合地域研究所が数年前に作られ、地域研究を実施しておりました。地域研究というのは本来日本だけではなく、世界各地域、どこであっても、政治、経済、社会、文化、とさまざまな角度から地域研究を行うという性格の分野です。まずはこの地域に貢献できるよう役割を果たしていく中心のひとつになっていこうと、これからは、千葉市、千葉県、更にはその周辺と、これら地域の研究に重点を置き、その成果を発信していく、また研究を共同で行う、そういう場にしたいと考えております。

今回のシンポジウムは、地域創生をテーマに開催させていただきました。この機会にぜひ、この研究所の存在、この地域について、皆さまからご意見を頂戴し、共にこの地域の活性化を進めていきたいと願っております。

本日はご参加いただき、ありがとうございます。

さんぺい・としお Toshio Sanpei

第6回公開シンポジウム 「千葉発地域創生——愛媛県今治市の事例に学ぶ」

平成26年6月30日(土) 13:00～15:30
於 敬愛大学稲毛キャンパス3号館3301教室

〈プログラム〉

開会の辞：三幣 利夫（敬愛大学学長）

司会進行：村川 庸子（敬愛大学国際学部教授）

第1部 〈基調講演Ⅰ〉

「千葉の地域創生——産業施策の経過と現実」

講 演：浜本 憲一（県議会事務局長・〔前〕千葉の魅力担当部長）

第2部 〈基調講演〉

「地域創生の実践——食育から『地産地消のタオル』まで」

講 演：安井 孝（愛媛県今治市営業戦略課長）

第3部 〈事例報告Ⅱ〉

「輸出による地域創生——千葉と全国の事例」

講 演：藪内 正樹（総合地域研究所所長・経済学部教授）

質疑応答